

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：2023年 3月 1日

事業所名 きっず・らるげっと

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			
	2	職員の配置数は適切である	7			
	3	事業所の設備等は、バリアフリー化など特性に応じて適切な配慮がなされている	7		バリアフリーではない。	バリアフリーではないが、特性に応じて仕切りをするなど構造化の配慮をおこなっている。
	4	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっている	7			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7			
	6	保護者等向け評価表を活用する等により、アンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			
	7	この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7			
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、各々に合わせたアセスメントツールを使用している	7		必要に応じて更新している。	児童に実態に応じた形、具体的には幼児期と学齢期でアセスメントツールを使い分けている。
	11	児童発達支援計画は、児童発達支援ガイドラインに基づき児童発達支援の提供すべき支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている	7			
	12	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		支援計画は職員全員で共有し、新しい気づきや視点があればその都度共有している。	適切な支援を実施するため常に支援の情報共有をして計画の見直しができるようにしている。
	13	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1	常に振り返りを行い、必要性や改善に念頭に見直しをおこなっている。	子どもの特性に応じて一部固定しているプログラムもあるが、固定化がただの慣性にならないように工夫している。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7			
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝礼で情報共有し、支援内容を確認している。	朝礼、もしくは前日の支援終了後にその日の情報や支援内容を共有し、役割分担を確認している。
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2	支援後にできなかった場合は翌日の朝礼で必ず共有している。	その日の支援後にスタッフが揃っていない場合には翌日の朝礼でも共有し、支援について全員で話し合えるようにしている。
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		業務日誌や支援記録に記録している。	支援記録の確認から得た情報を朝礼で再度共有し支援の検証をおこなっている。
19	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7				
関係機関や保護者と	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			
	22	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	現在は移行支援の該当者なし。	必要に応じておこなう。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
の連携関係機関や保護者との連携	23	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1		現在移行支援の該当者はいないが、保護者からの希望により関係機関との情報共有と相互理解をおこなう。
	24	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関での研修を受けている	6	1		今年度は専門機関の研修を受講していない者もあったが、専門分野の研修は受講している。
	25	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7		児童部会に参加している。	引き続き積極的に参加し、活動していく。
	26	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		連絡帳や帰りの引継ぎ等で連絡できる場を設けている。	左記方法で伝えられない場合は、児童発達支援管理責任者より直接電話で状況を伝えている。
	27	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	7		ペアレントトレーニングを実施している。	評価表の意向に沿い、今年度はペアレントトレーニングを実施した。今後も必要に応じて実施していく。
保護者への説明責任等	28	契約書及び重要事項説明書、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	29	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		コロナ禍により面談以外の電話希望にも対応し、支援内容の説明をしていた。	基本的には面談による説明と同意を得ているがイレギュラーな状態の場合は保護者希望により柔軟に対応している。
	30	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7			
	32	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	33	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			
	34	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	1	SARUGAKU祭に参加している。	地域住民を招待する行事ではなかったが、地域の中で活動し貢献できる事業運営を目指す。	
非常時等の対応	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		保護者が自由に閲覧できる場所に設置している。	定期的に確認し更新する。
	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			
	39	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	契約前の情報収集時から確認しており、服薬の際にも保護者からの事前連絡により確認している。	現在てんかん発作や定期服用が必要な児はいないが、服薬の必要がある際には保護者からの事前連絡により状況確認と服薬方法などの確認をしている。
	40	食物アレルギーのある子どもについて、アセスメントに基づく対応がされている	7			
	41	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			
	42	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		年に1度虐待防止研修を実施している。	法人研修以外の虐待防止研修も受講している。
	43	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。